

The 26th Electromagnetic Induction Workshop (EMIW2022)

(第 26 回地球・惑星電磁気学国際ワークショップ)



募金趣意書

EMIW 2022 Local Organizing Committee

(EMIW2022 別府大会組織委員会)

The 26th Electromagnetic Induction Workshop (EMIW2022)

Electromagnetic Induction Workshop (EMIW) は、国際地球電磁気学・超高層物理学協会 (International Association of Geomagnetism and Aeronomy, IAGA) の第 6 部門 (Division VI: Electromagnetic Induction in the Earth and Planetary Bodies) の主催で、2 年に一度開催される国際ワークショップです。EMIW では、電磁気学的な観測手法を用いた地球の地殻・マントルおよび惑星内部の構造探査に関わる様々な研究成果が多数発表されます。研究分野は、地球や惑星の成り立ちや仕組みの解明から、地震・津波・火山噴火・土砂災害に対する防災・減災への貢献、資源・エネルギー開発、地下水モニタリングや環境保全などを網羅しています。研究内容も、観測機器・観測手法・データ解析手法の開発や実装、実データへの応用と解釈、ケーススタディなど多様です。

このたび、2022 年の EMIW 第 26 回大会 (EMIW2022) が、大分県別府市で開催される運びとなりました。日本での開催は、1996 年の第 13 回大会以来 2 度目です。2022 年は、EMIW の歴史の 50 周年にあたる節目の年であり、大会開催国として日本が選ばれたことは、大変名誉なことでもあります。

日本は、世界有数の地震・火山国であり、かつ四方を海に囲まれた島国です。そのような環境から必然的に、地震活動や火山・地熱活動に関連した研究、土砂災害軽減・地盤評価のための物理探査、海域では日本近海のプレート沈み込み帯・熱水鉱床やより広域のテクトニクスを対象とした観測研究が活発です。世界をリードする研究も数多く行われています。これらの国内の大学・研究機関・企業などの研究・開発の成果は、これまでも各研究者の努力で世界へ発信されていますが、EMIW を日本で開催することで、より広く国外の研究者・技術者に成果を披露することができ、将来の国際交流や共同研究・事業のキックオフの場となることが期待されます。また、普段は海外で開催される会議への参加が難しい研究者、特に若手研究者や学生などが、世界第一線の研究に直に触れる絶好の機会となります。

私たちは、EMIW2022 の開催に向け、Local Organizing Committee を組織して準備を進めています。本大会を上記の趣旨沿ってより充実かつ有意義なものとするべく、皆様からのご支援とご協力を賜りたく衷心よりお願い申し上げます。

EMIW 2022 Local Organizing
Committee

実行委員長 馬場 聖至
実行副委員長 小山 崇夫

会議の概要

1. 会議の名称とテーマ

- (1) 会議の名称
The 26th Electromagnetic Induction Workshop (EMIW2022)
- (2) 会議のテーマ
電磁気学的手法を用いた地球および惑星内部構造に関する研究

2. 主催・共催などの名称

- (1) 主催
国際地球電磁気学・超高層物理学会 第6部門
The International Association of Geomagnetism and Aeronomy (IAGA)
Division VI: Electromagnetic Induction in the Earth and Planetary Bodies
<https://www.emiw.org/>
- (2) 共催
地球電磁気・地球惑星圏学会
<http://www.sgepss.org/sgepss/>
- (3) 協力
独立行政法人 国際観光振興機構(日本政府観光局)
- (4) 後援(予定含む)
国土交通省 観光庁
大分県
別府市
京都大学 大学院理学研究科附属 地球熱学研究施設
京都大学 防災研究所
東京大学 地震研究所
国立研究開発法人 海洋研究開発機構
公益社団法人 日本地震学会
公益社団法人 物理探査学会
特定非営利活動法人 日本火山学会
公益財団法人 阿蘇火山博物館

その他関連大学・研究機関・学会・団体

(5) 助成(予定含む)

公益社団法人ツーリズムおおいた
別府市コンベンション振興協議会

(6) 協賛(予定含む)

国内外の資源探査・地熱探査等コンサルタント企業、物理探査測定機器メーカー

3. 開催期間

2022 年 9 月 10 日(土)～16 日(金) (本会議 5 日間)

4. 開催場所

別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza

〒874-0828 大分県別府市山の手町 12-1

Tel:0977-26-7111 Fax: 0977-26-7100 URL: <http://www.b-conplaza.jp/>

5. 主催責任者

EMIW 2022 Local Organizing Committee (LOC)

委員長 馬場 聖至 (東京大学地震研究所 准教授)

副委員長 小山 崇夫 (東京大学地震研究所 助教)

事務局 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所 馬場聖至 / 小山崇夫

電話: 03-5841-5764 / 03-5841-5766

ファックス: 03-3812-9417 / 03-3812-6979

電子メール: emiw2022loc@gmail.com

6. 日本開催の経緯

Electromagnetic Induction Workshop は、国際地球電磁気学・超高層物理学会 (The International Association of Geomagnetism and Aeronomy; IAGA) の第 6 部門 (Division VI - Electromagnetic Induction in the Earth and Planetary Bodies; 2015 年にそれまでの第 1 部門下の作業部会から新たな部門へと昇格しました) が、その主たる活動として、世界各地において 1972 年以来隔年で開催している国際ワ

ークショップです。日本は、本会を構成する主要国の一つで、直近 25 年間は途切れることなく部門委員会(旧作業部会)にも委員を送り出しています。2008～2011 年には東京工業大学・小川康雄教授が作業部会委員長を務めるなど、本会をリードする重要な役割を果たしています。また、1996 年には北海道大沼において、第 13 回大会を開催しました。

EMIW は 2020 年に第 25 回大会を迎え、これまでに部門の主要構成国での開催がおおよそ一巡し、二巡目の開催国も出始めている時期にあたっています。EMIW の開催都市は、毎回の大会時に部門委員会において、次々回大会の立候補を受けつけ、委員の投票により決定されます。2022 年の第 26 回大会(EMIW2022)開催地については、複数の立候補の中から日本の招致提案が最も評価され、大沼大会以来となる日本で二度目の開催が決定しました。EMIW2022 は、くしくも EMIW 創設から 50 年目の節目の大会であり、我が国にとって大変名誉なことです。私たちには、本大会を成功裏に挙げて当該研究分野の更なる発展に貢献する使命があると認識しております。

なお、最近 4 大会の開催状況は、以下の通りです。また、2020 年の第 25 回大会はトルコで開催されることが決まっています。

開催年	開催地	参加国・地域数	参加者総数	日本人参加者
2020(第 25 回)	クサダシ(トルコ)	—	—	—
2018(第 24 回)	ヘルシンゲル(デンマーク)	38	302	12
2016(第 23 回)	チェンマイ(タイ)	39	288	24
2014(第 22 回)	ワイマール(ドイツ)	43	377	15
2012(第 21 回)	ダーウィン(オーストラリア)	31	273	23

7. 日本開催の目的と意義

我が国はプレート沈み込み帯に位置するがゆえに、地震・津波や火山といった自然災害と共存しているといえます。この複雑なテクトニック環境は地球科学の研究対象として非常に重要であり、そのため、日本は地球科学研究の最も盛んな国の一つです。電磁探査は地球科学の理学的な面で利用されるだけでなく、石油・鉱物等の地下資源探査にも積極的に応用され、近年格段の進歩を遂げています。これらの産業や技術をさらに活性化させていくことは、わが国の防災・減災対策の基盤として、また、国家の資力を高めるためにも極めて重要です。日本の研究者は、これらに関係する研究分野において世界をリードする成果を数多く上げており、EMIW を通じて研究成果を国際的に披瀝し、当該研究分野の世界的発展に貢献することは大き

な意義があります。

EWIW は次世代研究者の育成にも力を入れており、毎回数十名の学生・若手研究者の参加費・旅費を支援して、ワークショップへの積極的な参加を促しています。とはいえ、限られた予算で世界中の対象者を支援するため、日本の学生・若手研究者を全て支援することは不可能です。EMIW を日本で開催することにより、国内参加者の経済的負担を大幅に軽減できます。したがって日本で開催する EMIW2022 は、より多くの日本の学生・若手研究者が世界の第一線で行われている研究に直に触れ、また、自身の研究を国際コミュニティへ大きくアピールする場になることが期待できます。

日本における EMIW の開催は 1996 年の第 13 回大沼大会以来であり、EMIW2022 Local Organizing Committee の委員の多くが、当時学生または若手研究者でした。現在は中堅となった委員達が、大沼大会の運営ノウハウを引き継ぎ、次の世代へ伝えていくとともに、当該研究分野における日本のプレゼンスを維持していく上でも、EMIW の日本開催は時宜を得ており、極めて有意義なことであると思料されます。

8. 開催計画の概要

(1) 会議日程

月日	午前	午後	夜
9月10日(土)		参加登録受付	アイスブレイカー
9月11日(日)	開会式 セッション 1	セッション 2	
9月12日(月)	セッション 3	セッション 4 ビジネスミーティング I	
9月13日(火)	エクスカージョン		
9月14日(水)	セッション 5	セッション 6	
9月15日(木)	セッション 7	セッション 8 ビジネスミーティング II	
9月16日(金)	セッション 9	セッション 10 閉会式	懇親会

(2) 主要トピックス

観測装置・電磁場ソース・データ処理

電磁探査法の理論・解析手法

資源・エネルギー探査・環境モニタリング・災害

地震発生帯・火山の電気伝導度(比抵抗)構造、テクトニクス・ダイナミクス研究

海域での電磁探査

岩石・鉱物の電気伝導度(比抵抗)測定

全地球および惑星スケールの電磁誘導に関する研究

教育・アウトリーチ

(3) 参加予定者

国内 70 名

海外 230 名

合計 300 名

(4) 参加予定国 48ヶ国・地域

アルジェリア、アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、ボツワナ、ブラジル、カナダ、チリ、中国、チェコ、デンマーク、エジプト、エチオピア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、インド、インドネシア、イラン、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、韓国、メキシコ、オランダ、ミャンマー、ニュージーランド、ナイジェリア、ノルウェー、太平洋諸島信託統治領、ポーランド、ロシア、スロバキア、スペイン、スウェーデン、スイス、台湾、タイ、東ティモール、トルコ、ウクライナ、イギリス、アメリカ、ベネズエラ

(5) 会議使用言語

英語

9. 寄附金を必要とする理由

EMIW2022 は、国内外からおよそ 300 名の参加が予定され、開催準備・運営等に関する総経費は 3,073 万円が見込まれています。これらの諸経費は、本来参加登録費等でまかなうことが建て前ではありますが、従前多くの参加者がある東南アジアの開発途上諸国や、中南米・欧米の極めて遠方の国々からの参加者、特に若手研究者に高額な参加登録費を求めれば、海外からの参加者数が減り、引いては本会の趣旨である国際連携・情報共有の場としての意義を損ないかねません。むしろ発展途上国の研究者や次世代を担う若手研究者や学生には積極的な参加を促し、当該研究分野コミュニティの発展に資することが、Local Organizing Committee(LOC)には求められています。一方で従前の EMIW と同等の水準を満たすためには、経費節減にも限りがございます。

これらの事由により、総支出額 3,073 万円から、参加費等自己負担額 1,362 万円、

展示会等の収入 225 万円、補助金等 486 万円を除く、不足額 1,000 万円につきまして、当該研究分野に関連する諸企業及び諸団体、支援者の皆様から是非ともご援助を賜りたく存じます。

10. 収支予算案

収支区分	金額 (単位:千円)
(収入)	
1. 自己負担金等	13,620
2. 諸収入等(展示会等)	2,250
3. 補助金・助成金等	4,860
4. 協賛金・寄附金	10,000
収入合計	30,730
(支出)	
1. 会議準備費	780
2. 会議運営費	27,911
3. 展示会等	365
4. 募金経費	1,267
5. 事後処理費	407
支出合計	30,730

11. 寄附金募集要項

- (1) 募金の名称
EMIW 2022 寄附金
- (2) 募金の目標額
10,000,000 円(総額 30,730,000 円のうち)
- (3) 募金期間
2019 年(令和元年)10 月 7 日 ~ 2022 年(令和 4 年)9 月 9 日
- (4) 協賛金・寄附金の用途
EMIW 2022 の準備、運営並びに募金経費の一部に充当します。
- (5) 寄附金申込先
独立行政法人国際観光振興機構 MICE プロモーション部交付金担当
〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-6-1 YOTSUYA TOWER 10 階

電話:03-5369-6015 ファックス:03-3350-3650

email:cvnews@jnto.go.jp

(6) 寄附金振込方法

別紙のフローチャート通りとなります。

別紙申込書を国際観光振興機構にお送りください。

寄附金申込書を受領し確認次第、国際観光振興機構より寄附金申込受理書を送付いたします。寄附金申込書受理書を受領後、指定口座番号にお振込ください。

(7) 税法上の扱い

この寄附金は、特定公益増進法人である独立行政法人国際観光振興機構への寄附金として、税法上の一般寄附金とは別途に損金算入等の優遇措置が講ぜられます。